

●第13回マレーシア日本語教育国際研究発表会・浦和研修報告会

(2016年10月8, 9日, マレーシア : クアラルンプール)

報告者 : 芹澤 有美 (国際交流基金クアラルンプール日本文化センター, 主催者)

本会は, 国際交流基金クアラルンプール日本文化センター (JFKL) とマラヤ大学予備教育部 (AAJ) の共催で, 年に1度行われるものである。マレーシア国内外から広く発表者を募る研究発表会と, 国際交流基金日本語国際センター (浦和) の「海外日本語教師研修」参加者による浦和研修報告会を同時に開催している。第13回目の開催となる本年の研究発表会は, 2016年10月8日, 9日にAAJにて行われ, 国内の中等, 高等, 民間教育機関, さらには海外の教育機関からも参加者が集まった。参加者数は延べ188名であった。

初日は, 早稲田大学大学院客員准教授の西條剛央氏をお招きした基調講演から始まった。講演では, 「質的研究のエッセンス~SCQRMの視座~」と題し, 構造構成主義に立脚した質的研究法であるSCQRMについて解説していただいた。同日午後に行われたポスター発表においても, ローカル教師と日本人教師の協働過程をSCQRMの視点を用いて分析した発表があり, 日本語教育研究におけるSCQRMの利用の可能性について, 西條氏を交えて意見交換が行われていた。

ポスター発表のセッションでは, 公募による発表が上記発表を含め9本あったほか, 浦和研修報告が2本, さらに特別枠として, マレーシア国内の教師養成機関修了生による中等学校日本語授業におけるユニークな活動実践の報告が5本行われた。その後, ホールにてJFKLによる「JFにほんごeラーニング みなと」の紹介と, あとに述べるマレーシア日本語教師会(MAJLIS)年次総会が行われた。

2日目は, 口頭発表が6本行われた。うち3本は, コア教師と呼ばれる, 国際交流基金・かめのり財団共催「にほんご人フォーラム」参加教師によるPBL (Project Based Learning) の実践報告に特別枠としてあてられた。限られた時間の中でプロジェクトワークに取り組んだ過程と成果の発表には, 参加した中等日本語教師のみならず, 高等教育関係者からも高い関心が寄せられていた。残る2本は浦和研修報告で, 公募による発表は1本のみであった。浦和研修報告のうちの1本と, 公募による口頭発表は, 高等教育機関におけるビジネス日本語教育に関するもので, 会場内でも活発な議論が行われた。

最後に, 本年の研究発表会と連動して行われた, MAJLIS年次総会について述べる。これまで, マレーシアには日本語教師会が存在していなかったが, この年次総会において初の教師会となるMAJLISが正式に発足した。JFKLはかねてより研究発表会の現地化を目指しており, 次年度以降, 本会は, JFKL, AAJにMAJLISを加えた三者共催で実施される。なお, 研究発表会と浦和研修報告会の同時開催は, 本会の特徴の一つでもあったが, この流れを受け, 来年度開催時より各会を分離して行う予定である。また, 特別枠を廃し, すべて公募制とすることにより, 発表機会をさらに一般に拡大する方針である。来年度の開催日程は2017年10月7日, 8日を予定している。公募に関する情報は, 3月頃にJFKLのホームページ (<http://www.jfkl.org.my/>) に掲載予定である。ぜひご参照いただきたい。